

平成22事業年度決算の概要

1. 平成22事業年度においては、資産が大幅に減少し、負債がそれを上回って減少し、純資産が増加していますので、規模的には縮小しています。また、収益も大幅に減少していますが、費用がそれを上回って減少しており、32.5億円の当期総利益が生じています。
- この利益は、本学が推し進める伊都キャンパス移転事業に多額の財政需要が継続的に見込まれることなどから、厳しい財政状況にありながらも、全学的に計画的な経費削減に取り組んだ結果、生じたものです。

貸借対照表B/S (Balance Sheet) の概要

平成21事業年度と比較した主な特筆すべき点は以下のとおりです。（カッコ内の金額は対平成21事業年度増減額）

【資産】	4,008.8億円（▲117.2億円）
《主な内訳》	
☐ 土地	1,795.8億円（+59.7億円）
平成22事業年度は、伊都キャンパス用地の取得により60.8億円増加した一方で、六本松キャンパス売店敷等の売却により1.1億円減少しています。なお、伊都キャンパスは取得予定用地208.6haのうち195.8ha(93.9%)が取得済みとなりました。（平成22年度取得11.9ha、全体の5.7%）※面積：公簿面積	
☐ 建物・構築物	1,352.1億円（▲54.1億円）
建物・構築物1,352.1億円は、取得価格1,834.3億円から減価償却累計額等482.1億円を控除した額です。平成22事業年度は、医学系総合研究棟(基礎B棟)改修、次世代エネルギー実証施設新営等により28.3億円増加した一方で、減価償却累計額等が82.4億円増加しています。	
☐ 設備(機械装置、工具器具備品、医療用機器)	270.2億円（▲43.0億円）
設備270.2億円は、取得価格862.7億円から減価償却累計額等592.5億円を控除した額です。平成22事業年度は、高圧水素雰囲気下材料試験装置改造、リアルタイムME機器管理システム購入等により63.5億円増加した一方で、減価償却累計額が106.5億円増加しています。	
☐ 現金及び預金(含む、長期性預金)	176.7億円（▲156.8億円）
現金、普通預金、定期預金等の額で、平成22事業年度は未払金が少なかったことと定期預金による運用から譲渡性預金による運用ヘシフトしたことなどから156.8億円減少しています。	
☐ 有価証券(含む、投資有価証券)	119.9億円（+70.2億円）
平成22事業年度は短期運用で譲渡性預金による運用を増やしたことにより70.2億円増加しています。	
【負債】	1,374.7億円（▲130.6億円）
《主な内訳》	
☐ 借入金	575.1億円（▲42.3億円）
借入金には、国立大学財務・経営センター債務負担金、長期借入金、短期借入金があります。国立大学財務・経営センター債務負担金は法人化以前の借入金に対する債務で、長期借入金は法人化後に借入れた返済期限が1年を超える借入金であり、返済期限が1年未満のものは短期借入金です。平成22事業年度は借入金の返済が順調に進んだことなどにより42.3億円減少しています。	
☐ 未払金	115.3億円（▲80.9億円）
未払金は、大部分が3月に債務計上され4月に支払われるもので、平成22事業年度は4月払いの設備購入額や退職手当支給額等の減少により80.9億円減少しています。	
【純資産】	2,634.0億円（+13.4億円）
《主な内訳》	
☐ 資本剰余金	1,111.4億円（+28.9億円）
資本剰余金は、国立大学法人の財産的基礎を構成すると認められる固定資産を取得した場合に増加します。平成22事業年度は、施設費等を財源とした固定資産の取得等により92.2億円増加した一方で、損益外減価償却累計額等が63.3億円増加しています。	
☐ 前中期目標期間繰越積立金	25.3億円（+25.3億円）
第一期中期目標期間終了時における積立金の処分に伴い、平成22事業年度に44.9億円が第二期中期目標期間への繰越額として承認され、前中期目標期間繰越積立金に振り替えました。このうち現金の裏付けがあり、第二期中期目標期間中に使用できる27.5億円は、使用する都度取り崩されます。当該積立金の使途に沿った資産の取得及び費用の発生により、平成22事業年度には19.6億円が取り崩されています。	

2. 平成22事業年度の当期総利益32.5億円のうち、繰越承認ルールに基づき算定した28.2億円を文部科学大臣に目的積立金として申請し、大臣承認が得られれば、伊都キャンパス移転に係る施設整備事業等に計画的に使用する予定です。

損益計算書P/L (Profit & Loss Statement) の概要

平成21事業年度と比較した主な特筆すべき点は以下のとおりです。（カッコ内の金額は対平成21事業年度増減額）

【費用】	1,045.2億円（▲45.9億円）
《主な内訳》	
☐ 教育経費	38.7億円（▲9.4億円）
平成21事業年度に伊都キャンパスへの統合移転事業等の促進による目的積立金等の執行や補助金受入額などが増加していたために、平成22事業年度は減少しています。	
☐ 研究経費	117.0億円（▲3.3億円）
平成21事業年度に伊都キャンパスへの統合移転事業等の促進による目的積立金等の執行などが増加していたために、平成22事業年度は減少しています。	
☐ 診療経費	232.8億円（▲2.7億円）
平成21事業年度に外来診療棟の竣工・開院による特別経費が増加していたために、平成22事業年度は減少しています。なお、診療実績の増加に伴い医薬品費等は増加しています。	
☐ 人件費	489.9億円（▲22.6億円）
退職給付費用の支給対象者が少なかったことにより減少しています。	
【収益】	1,077.5億円（▲40.7億円）
《主な内訳》	
☐ 運営費交付金収益	415.4億円（▲32.4億円）
平成21事業年度に外来診療棟関係経費が措置されていたこと、平成22事業年度には一般運営費交付金の臨時的減額が実施されたこと、退職給付費用見合いの収益化額が減ったことなどから、減少しています。	
☐ 附属病院収益	335.8億円（+22.0億円）
平成21年9月の外来診療棟開院に伴う外来診療実績の増加、平成22年度の診療報酬改定による影響及び経営努力により増加しています。	
☐ 臨時利益	1.1億円（▲29.6億円）
平成21事業年度が第一期中期目標期間の最終年度であったため、運営費交付金債務等の精算に伴う収益化を行い特別に金額が大きかったもので、平成22事業年度は平年度化したことから減少しています。	
目的積立金取崩額	0.2億円（▲29.0億円）
目的積立金は原則として中期目標期間中に使用するものであり、平成22事業年度は第二期の初年度のため目的積立金自体がなく、前中期目標期間繰越積立金を0.2億円費用として使用した分が取り崩されたものです。	
【総利益】	32.5億円（▲23.7億円）
上記費用、収益に目的積立金取崩額0.2億円を計上した結果、当期総利益は32.5億円となっています。	